

## ○みやま市民憲章の解説

この市民憲章は、市としての基本理念やまちづくりの理想像を掲げるとともに、まちづくりのための市民の行動規範や努力目標を謳い込むことで、市に対する郷土愛を育み、まちづくりへの参加意欲を喚起することを目的に作成しました。

### 【前文】

- ・市の自然や歴史などの特徴を表現したうえで、市民憲章を制定する目的を示しています。
- ・冒頭の1行を市民憲章のキャッチフレーズとして、この憲章の意義を強く印象づけるようにしました。
- ・一人称の「私」は、本来の訓読みを平仮名にして「わたくし」とし、やわらかくなるように表記しました。

### 【本文】

- ・「み」「や」「ま」「し」が各項目の先頭にくるように、あえて4つの項目で構成し、市民に親しみやすいように配慮しました。また、表記した際に、市の名前を少しでも多くの人に知ってもらえるよう先頭文字を強調し、「みやまし」が明確になるよう工夫しました。
- ・文章は、幅広い世代にわかりやすいような表現としました。
- ・末尾は「ます」で終わり、宣誓文として唱和できる程度の長さとししました。

### 【前文】

みやま市は、わたくしたちのふるさとです。

緑なす清水山、御牧山、愛宕山の山なみ、矢部川の清流と肥沃な田園地帯、そして宝の海、有明海。いにしへの歴史は今にいきづき、自然の恵みを受けて、人々の暮らしは過去から現在へ、現在から未来へと引き継がれていきます。

わたくしたちは、この自然と歴史、伝統と文化に育まれたみやま市民であることを誇りとし、ともに手を取り合って、希望にあふれ夢ふくらむまちをめざすことを誓い、ここに市民憲章を定めます。

(解説)

平成19年1月29日、3つの町の合併により誕生したみやま市は、山、川、海がそろった大変豊かな自然に恵まれています。校歌にも登場する、清水山、御牧山、愛宕山、矢部川とその支流、そして有明海。この豊かな自然が生み出す山の幸、川の幸、海の幸は、遠く卑弥呼の時代からこの地に暮らす人々の生活を豊かにし、様々な伝統や文化を育んできました。

私たちは、これまで受け継がれてきたみやま市の素晴らしい自然、歴史、伝統、文化を再認識し、そこに生まれ育ったことを誇りに思い、すべての市民が手を取り合って、夢と希望に満ちた未来に羽ばたくまちをつくるため、市民憲章を定めるものです。

【本文】

**み**ずと緑にあふれる美しい郷土を愛し 健康で安心して暮らせる 心やすらぐまちをつくります

(解説)

山、川、海といった自然と大地は、豊かな緑と美しい景観を形づくり、きれいな水と空気を生み出しています。そこで育まれた文化や生活様式は、私たちに健やかで穏やかな暮らしを提供してくれています。このふるさとを大切に、住みよい環境づくりに努め、ここに暮らす誰もが健康で安心して暮らせるような、心安らぐまちにしようという思いを込めています。

(この本文のテーマ：自然、環境、健康、福祉)

**や**さしい気持ちで互いを思いやり 笑顔あふれるあいさつで 心のかよいあうまちをつくります

(解説)

少子高齢化や人口減少などが様々な社会問題を生む中、今ほど人と人との支えあいや助け合いが必要とされているときはありません。市民一人ひとりが、世代や性別、職業、国籍、立場、地域などすべての違いを超えてお互いを認め合い、やさしく思いやる気持ちを持ちながら、いつでも、どこでも、誰とでも、最も身近なコミュニケーションの手段である「あいさつ」を通して、笑顔あふれる心のかよいあうまちにしようという思いを表現したものです。

(この本文のテーマ：共生、人権、地域コミュニティ、ボランティア)

## ま もり育てられてきた歴史と伝統を大切にし 教養を深め文化のかおり高い 心豊かなまちをつくります

(解説)

みやま市は、邪馬台国を今に伝える遺跡や史跡が数多く残る、古代の浪漫にあふれるまちです。また、幸若舞や新開能などの民族芸能も後世へ大切に伝承され、多くの偉人が生まれ育ち、数々の功績を残してきたまちでもあります。私たちは先人から受け継いだ歴史と伝統を大切にしながら、市民一人ひとりが教養を深め、個性を伸ばし、生涯にわたり向上心を持ち続けることで、文化のかおり高い、心豊かなまちにしようという思いを表現しています。

(この本文のテーマ：伝統、文化、教育)

## し ぜんの恵みに感謝し 働く喜びと生きがいを感じる 心はずむまちをつくります

(解説)

農業や漁業をはじめ商業、工業など様々な地場産業を育ててきたみやま市の自然に感謝し、そこで働くことに喜びと生きがいを感じ、物心ともに豊かさを実感できるまちにしたいという願いを込めています。また、新しい暮らしや文化、産業を積極的に創り出し、希望と活気に満ちた未来に向かって発展していくまち、心はずむまちを目指すことを表現しています。

(この本文のテーマ：勤労、産業振興、経済)